

町長コラム

松伏町を楽しむ 生活スタイルとは



鈴木 勝

以前、経済学者の森永卓郎氏の講演で面白い言葉を耳にした。

1つは「自産自消」である。「年金減少時代をどう生きるか」という講演のテーマで、公的年金だけでは月約6万円不足するという「年金2,000万円問題」を取り上げていた。氏は、現在、50坪ほどの農地を借りて農作物を栽培しており、1カ月の食費は肉、魚及び調味料以外ほとんどかかっていないとのことである。「地産地消」はCO₂削減問題で知られているが、自ら生産し、自ら消費して生活するのが「自産自消」なのである。

次に「とかいなか」である。氏は都心から1時間半程離れた都会と田舎の中間に存在する場所で生活しており、仕事で時々都内に出るが、あまり不便を感じないとのことである。この距離感を「とかいなか」と名付けた。

これら2つの言葉から、まさしく松伏町そのものだと思った。松伏町にも町営の農園や農家の方々の農地がたくさんあり、借りることができると思う。また、都心からも程よい距離にある。リモート勤務等も増加していることから、ぜひこの生活スタイルに挑戦してみてください。

人権

それは愛

「仲直り」

ある日の下校中、四年生が三年生の僕をいじめてきました。僕の友達の手もいじめてきました。

僕は、大きな声で「やめてよ、いじめるの!」と言いました。でも四年生はやめてくれませんでした。

僕は家に帰ってからお母さんに話しました。お母さんはこう言いました。「からかっているのよ。」

僕は次の日、勇気を出して聞いてみることにしました。聞いてみると帰ってきた言葉は「うるせんだよ。」でした。僕の心の風船はしぼんでしまい、嫌な気持ちになりました。

次の日、給食の時間、僕はトイレに行く途中、いじめてきた四年生に会いました。僕はどきどきしました。四年生が僕の顔を見ています。僕はもっとどきどきしました。

その四年生は言いました。「この前はおめんね。今度遊ぶとき、カード交換しようね。」僕の心の風船は大きくふくらみました。

お母さんの言ったことは本当だったんだ。勇気を出して聞いてよかった。

人権作文集～こころ～ より

松伏町消費生活センター 情報

借金・多重債務でお悩みの方は ご相談ください

コロナ禍での収入減や物価高により、キャッシングや消費者金融から借入せざるを得ない、と経済的に苦しい方々がいます。返済しきれない借金(多重債務)を抱えている方の多くは次のような状況に置かれています。

- ①借金の返済のために借金を繰り返す
- ②日々の取立てに追われ、冷静な判断ができなくなる
- ③誰に相談してよいか分からず苦しんでいる

最初は医療費が払えない、今月の家賃が払えない、生活費が足りないなど、ちょっとしたきっかけにより借金が始まります。

事例

生活費の補てんにカード会社からキャッシングをし、その返済のため消費者金融で借りた。現在、借金は合計8社から200万円になった。家族に内緒にしており、誰にも相談できない。

消費者生活センターからのアドバイス

多重債務で支払いが困難になった場合、解決策として「任意整理」「特定調停」「個人再生」「自己破産」があります。収入が一定以下であれば、裁判や弁護士費用などの立替えを行う「民事法律扶助」の制度もあります。多重債務は早期に解決すべき問題です。消費生活センターにご相談ください。

ひとりで悩まず すぐ相談！

消費者ホットライン

188 局番なし

松伏町消費生活センター

又は ☎984-7208